

坊っちゃん劇場第17作

日台野球交流100周年記念ミュージカル

KANON

～1931 甲子園まで2000キロ～



墨絵・題字 茂本ヒデキチ

公演期間

2023年4月1日

2024年3月(予定)

BOTCHAN THEATER SINCE 2006

坊っちゃん劇場

愛媛県東温市見奈良1125

TEL 089-955-1174

1930年、かつて松山商業を6度の甲子園出場に導いた名将・近藤兵太郎は、日本統治下の台湾で嘉農農林学校の野球部監督に就任する。

嘉農野球部は、漢人、原住民族、日本人の三民族混成チーム。それぞれ家庭の事情や青春の悩みを抱えながら、「みんなで甲子園に行こう」を合言葉に猛練習に励む。

当初は監督就任を快く思っていなかった近藤の妻や娘も、熱血指導する兵太郎、民族の垣根を越えて友情をはぐくみ、只ひたすらに甲子園出場を夢見て頑張る選手達と接するうちに嘉農野球部の応援団となっていく。

一方、選手の親たちは、「球遊びより野良仕事を手伝え」と練習を妨害し、選手らの足かせとなる。

やがて始まった全島大会、嘉農は次々と台北の強豪校を破り、遂に甲子園への切符を手にする。甲子園初出場の無名校は本大会でも快進撃、なんと台湾代表校が甲子園大会の決勝戦まで勝ち進んでしまった。

1931年、夏の甲子園大会決勝戦——。

最後の決戦の前に、兵太郎は選手たちにずっと言えずにいた意外な真実を告げる。

果たして、兵太郎が嘉農野球部の監督を引き受けた本当の理由とは？

部活動に批判的だった親たちが取った意外な行動とは？

恋と青春の全てを賭けた決勝戦の行方は？

運命のプレイボールが今、聞こえる！

脚本 羽原大介

演出 錦織一清

音楽監督 作詞作曲

岸田敏志

制作

坊っちゃん劇場

主催：坊っちゃん劇場

共催：愛媛新聞社

賛助：MIURA



ラジオ実況中継アナウンサー 田中 和彦 (特別出演)

松山の隠れた偉人、近藤兵太郎 (1888~1966年)



嘉義農林学校野球部監督時代の近藤兵太郎 (提供=古川勝三)

近藤兵太郎は松山市萱町 (現在の平和通り6丁目) で生まれ、松山商業高校野球部で野球に打ち込む。卒業後は、監督として同部を率いて全国大会に初出場し、松山商業高校野球部に最初の黄金時代をもたらす。当時の教え子、藤本定義は巨人軍監督、森茂雄は大阪タイガース (現阪神タイガース) などの監督として活躍し、後にプロ野球殿堂入りする。

1919年、家族で日本が統治していた台湾に移住。嘉義農林学校野球部を指導し、1931年夏の第17回全国中等学校優勝野球大会 (甲子園大会) に台湾代表として初出場。日本人、漢人、台湾原住民と民族を超えたチームワークで勝利を重ねて準優勝をつかみ、大きな話題となった。同部時代の教え子の中からは呉波が野球殿堂入りしたほか、多くの教え子たちが台湾野球の指導者となり、近藤野球、を後世に伝えた。

近藤は松山商業高校時代に6回、嘉義農林学校時代に5回、甲子園出場を果たしている。

戦後の引き上げで1946年、松山に帰郷。新田高校野球部と愛媛大学野球部の監督として野球教育に尽力し、松山で没したが、その功績を知る人はいなかったという。

新田高校で野球部員だった新栄食品 (松山市) の林司朗社長は当時を振り返り「厳しい練習をする一方、徹底的に野球理論を叩きこまれました。口やかましたかったが生徒を叩いたことは一度もありませんでした」と振り返る。

嘉義農林学校は現在、国立嘉義大学となり、キャンパスには近藤の銅像や「天下の嘉農」と記された野球ボールの大モニュメント、市街地にはグローブやバットを模した記念モニュメントなどあり、街をあげて顕彰ムードがあふれる。

松山市では「球は霊なり」と記された近藤の顕彰モニュメントが坊っちゃんスタジアム前に設置され、近藤が眠る松山市御幸町の千秋寺には、嘉義農林OBたちが今も参拝するという。



国立嘉義大学キャンパスの銅像 野球部員にバッティングを指導する近藤兵太郎

台湾年表

- 1895年 1894年に始まった日清戦争が終わり下関条約で台湾が日本の統治下に入る
- 1903年 日本—台湾間定期航路開設
- 1905年 台北市内に初めて電灯がつく
- 1908年 北回帰線標、嘉義に建設
- 1919年 台湾総督府 (現在の総統府) 完成
- 1920年 嘉南大圳 八田與一の設計で着工
- 1927年 高雄火力発電所建設開始
- 1929年 台湾電力社長に松木幹一郎 (西条市出身) が就任
- 1930年 嘉南大圳完成
- 1935年 日月潭水力発電所完成
- 1941年 太平洋戦争が始まる
- 1942年 志願兵制度実施
- 1945年 太平洋戦争が終わる

参考: 日本人に知ってほしい「台湾の歴史」より ※ 部劇中の出来事を表記

近藤兵太郎年表

- 1888年 7月17日愛媛県松山市萱町に生まれる
- 1908年 愛媛県立松山商業高校を卒業
- 1918年 同校野球部初代監督就任 同校の6年連続全国出場など松商第一期黄金時代を築く
- 1919年 家族で台湾へ移住
- 1931年 台湾の嘉義農林学校野球部監督就任 後に同部が台湾代表になり第17回全国大会初出場 準優勝 春夏5回甲子園に登場「天下の嘉農」と称される
- 1940年 台湾野球の基盤をつくるも戦時下の為 嘉義農林学校野球部監督を勇退
- 1946年 松山に引き揚げ
- 1950年 新田高校野球部初代監督就任
- 1966年 松山で逝去 (78歳)

(参考: 坊っちゃんスタジアムモニュメント年表より) ※ 部劇中の出来事を表記

KANO 公演期間
2023年 4月1日(土) ▶▶▶ 2024年 3月 予定

脚本: 羽原 大介 演出: 錦織 一清 音楽監督・作詞・作曲: 岸田 敏志
振付・ステージング: 神在 ひろみ/装置: 土屋 茂昭/照明: 高山 晴彦/衣裳: とわづり/衣裳プラン: 桃木 春香
ヘアメイクプラン: 馮 啓孝/ヘアメイク: 小宮 英子/小道具: 岩辺 健二/音響効果: 勝間田 雅幸
脚本協力: 入江 おろば/編曲: 稲田 しんたろう/ギター: 荒木 博司/歌唱指導: 西野 誠/日本舞踊指導: 泉 鮎子
三味線指導: 堀尾 泰磨/フラカード文字揮毫: 藤岡 抱玉/演出補: 大杉 良/舞台監督: 辻内 達也
墨絵・題字: 茂木 ヒデキチ